

「東京都教員採用試験合格への道のり」

東京都・中高共通・国語（120期 日本文学科）

私が教員に憧れを抱き始めたのは、中学校の頃でした。高校の進路決定の際も私を支えてくださったのは先生の言葉でした。私は高校卒業後、県立の短大へ進学しました。その短大生活の中で、教員になりたいという思いをさらに強め、國學院大學への編入学を決意しました。今振り返っても、私の人生の分岐点にはいつも先生の存在がありました。

編入直後の3年生の前期、私は卒業単位をとることに必死でした。しかし、周りは進路について考え始めていました。私は教員になるために編入してきたにも関わらず、自分の夢を叶えるための行動を起こせずにいたことに焦りを感じ、キャリアサポート課に相談に行きました。それから、夏期集中講習会をきっかけに教職ゼミに参加し始めました。

途中からの教職ゼミへの参加ということで、周りに追いつこうと焦りばかりがありました。また、気持ちは焦る一方で、自分自身の甘えや不出来さに嫌気が差すこともよくありました。教職ゼミに参加してからの日々は、本当に自分自身との戦いだったように思います。最初は自信など全くなく、他のゼミ生の後ろに隠れ受身の状態で講義を受けていました。それでは何も成長しないことは自分でも分かりきっていましたが、行動に移せずにいました。

そんなわたしが変わったのは、一緒に頑張る仲間がいると思えた時からです。図書館に行けば、必ずゼミの誰かが勉強していました。時には悩みを打ち明けたり、皆の意見を参考にしたり、「皆に負けていけない」と思うと同時に仲間の存在が私の大きな支えになりました。自分を追い込み、英検や漢検、TOEICを受験し、勉強する機会を作りました。勉強をすればするほど、不安もたくさん増えていきましたが、「まず、やれ!」という高校の担任の先生の口癖を思い出し、悩む時間ももたないと考え勉強に取り組みました。

本当にたくさんの先生方と友達に支えられてきました。先生方の言葉が私の原動力となり、大きな励みとなりました。私のたくさんの不安を自信に変えてくださった先生の言葉に何度感謝をしてもしきれません。今思い出しながらこの文章を書いている、涙が出てきます。私を変えたのは、この教職総合ゼミだったと思います。

私の合格の決め手は、足を引っ張り合うのではなくて、互いに高め合うことのできる仲間がいたことと、先生方に出会うことができたことです。そのような環境を作ってくくださった先生方、前田課長をはじめとする教職センターの皆さんに本当に感謝しています。

これから、教員となって自身の理想の教師に近づけるよう日々努力していきます。

これから、教員を目指すみなさん、たくさんの不安や壁にぶつかる事がこれからあると思います。自分を信じ、仲間を信じ、指導してくださる先生方に感謝の気持ちを忘れずに目標に向かって突き進んでいってください。